

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	神奈川県	市町村名	愛川町	大学名	
派遣日	令和 6年 1月 11日(木曜日) 14:10~15:30(講義) 町教育委員会主催の研修会における講義 80分間への派遣 ※派遣当日の実施要項、次第を添付。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	愛川町役場 4階会議室				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会 横溝 亮 指導主事				
相談者	愛川町教育委員会指導室長 菅沼 知香子				
相談内容	<p>本町には大変多くの外国人住民の方がおり、町立小・中学校には外国につながるの ある児童・生徒が数多く在籍していて、日本語指導が必要な子どもたちがたくさんい る。学校によっては、設置している日本語指導教室の担当者の対応できる範疇を超え る状態となっている。各校の担当者は、自分たちのできる工夫を凝らして、日本語指 導や教科学習支援を行っているが、児童・生徒の日本語力アセスメントや、指導資料 や使用教材についての助言を求めている。教育委員会担当者も専門的な知見が十分で はなく、要望には応えきれない状況であった。</p> <p>派遣していただいた横溝指導主事には、日本語指導の基本やアセスメントの指標、 指導段階の見極め方などについて、研修会における講義をお願いした。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>事前連絡の段階で、本町の状況をお伝えし、研修における講義内容として</p> <ol style="list-style-type: none">① 外国につながる児童生徒への指導・支援を行う日本語指導教員に求められる力② 外国につながる児童生徒への日本語・教科指導のあり方③ 外国につながる児童生徒の評価と、その後の指導・支援を考える <p>の3つを提案していただき、動画視聴やワークショップ型の研修を含む講義を行っ た。</p> <p>①については、学習指導要領の記載や外国人児童生徒受入れの手引の内容を踏まえ ながら説明していただいた。日本語指導教室・国際教室の在り方は1つではなく、対 象としている児童生徒の状況によって、指導内容が変わってくる(日本語指導中心、 教科学習中心など)こと、居場所の確保としての役割もあることなどをわかりやすく 整理して示していただいた。</p> <p>②については、「豆の木モデル(外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力モ デル)」(日本語教育学会)を使って考えるとよいのではないかという提案をいただ いた。また、単語帳的な言葉の指導ではなく、子どもの主体的な活動の中で使うこと を大切に日本語を学習すること、「なんとなくわかった」→「実際に使って発信す る」ことまでを在籍級と連携して指導することが大切であること、指導の効果が感じ られない時には、子どもの心の問題にも配慮すること、子どもができるようになった ことを子ども自身にもわかるようにするとよいことなどについても教えていただ いた。</p>				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>③については、子どもの日本語力の見取りについて具体的な場面を見せていただき、参加者同士でこのケースは今後どのような指導をしていくのがよいかを話し合い検討するワークショップを行った。参加者は、自校で行っている方法と組み合わせ、より適切な見取りに向けた方向性を見いだせていた。</p> <p>また、研修後には、使用している教材・資料を整理し、様々な段階の子どもたちに対する指導内容をより適切なものとするために、具体的な相談を始める取り組みが芽生えていた。</p>
--------------------	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。